ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

127 号
2017 年 3 月 10 日発行号

「第 39 回環境学習セミナー」

～山村の豊かさ、生物文化多様性を知り、学び、伝承する～

長年研究と実践を重ねてきた「伝統知」に関するシンポジウムを 4 月 15-16 日に神奈川県藤野町の篠原の里にて開催します。奮ってご参加ください。詳細は、同封のシンポジウムのチラシをご覧ください！！

■ 活動報告 ■

その 1 冒険学校「まふゆのキャンプ」報告 2016. 12.23～25

零下 10℃の中、まふゆのキャンプを開催しました。この時期のキャンプ場は日陰になりますのでたき火は欠かせません。皆で暖を取りつつ、たくさんのプログラムを行いました！！

『まふゆのキャンプ感想』　佐地景都さん（小５）

私がまふゆのキャンプで心に残った事は、焚き火とバームクーヘン作りです。理由は、夏は暑いから起きてすぐに「川に入りたい」という気持ちになったが、冬は寒いから起きてすぐに焚き火を作りたくなります。なので、私と一緒に起きてきた人と作りました。ある程度火がつくと、煙が出始めます。すると、風で煙が自分たちのところにくると、焚き火で温まっている人全員が洋服で顔を押さえているのが印象的でした。その焚き火でバームクーヘンを作りました。少し生っぽかったけど、何層も何層も一回一回焚き火で焼くことでおいしく感じました。

私たちが暮らしているところではできない、野鳥観察もできて楽しかったです。それに新しい友達もできてよかったです。

『まふゆのキャンプで楽しかったこと』

石黒友里さん（小４）

私がキャンプで一番楽しったことは、中組（地区のアキ子さんの家）でおもちを食べたことです。おもちはあんこときなこと、いそべ味で食べました。おぞうにも食べました。

わたしはつきたてのおもちをおぞうにで食べたことがなかったので、とてももちもちしておいしかったです。また食べたいなと思いました。

星空観察も楽しかったです。オリオン座やすばるを見ることができました。道の駅こすげのライトアップが小さく見え、とてもきれいでした。

少し寒い３日間でしたが、いろいろな体験ができてとても良かったです。

突っ込みようがない・・・。

「第 12 期ちえのわ農学校」　報告と新年度の募集内容です。

みなさまこんにちは。東京学芸大学の学生サークルである「サークルちえのわ」です。大学内にある農園を借りて、通年で「ちえのわ農学校」と題して地域の子どもたちと食農文化体験活動を行っています。また、INCH が開催するキャンプにもスタッフとして参加させていただいています。今回はこの場をお借りして「ちえのわ農学校」のご紹介及び来年度(第１３期)の参加者の募集をさせていただきたいと思います。

【ちえのわ農学校とは】
ちえのわ農学校では、次の３つの“わ”を理念として、４月から翌年１月まで毎月１回(全 10 回)の活動を行っています。

＊自然のわ：自然の様々な表情と向き合いながら、「種から胃袋まで」の道のりを実践することを五感で感じるきっかけづくりをする。
＊人のわ：農学校だからこそできる体験を通じて子どもたちが仲間とのつながりを感じられるきっかけづくりをする。
＊知恵のわ：昔ながらの知恵や文化にふれ、身近なものを見つめなおすきっかけづくりをする。

◎主な活動内容
第 12 期のちえのわ農学校でも、通年で野菜の栽培やお米作りを行いました。
春にはタケノコを掘り、夏野菜の種を蒔き、田植えもしました。田植えの後には田んぼで泥遊びもしました。
夏には野菜の収穫をしてカレーにして食べたり、竹工作をして水遊びもしたり、流しそうめんもしたり、夜の農園でかくれんぼもしたり、ヤマメを捌いて食べたりもしました。８月農学校は１泊２日でお泊りもしました。
秋からはまた新しく冬野菜を育て始め、お米の収穫から脱穀・精米をし、お米を粉にして料理もしました。ちえのわで育てたサツマイモで焼き芋にして食べたこともありました。
冬には藁でクリスマスやお正月の飾りを作ったり、冬野菜の収穫をしたりしました。寒い中での外遊びもたくさん行いました。
この他にも全力で泥団子を作ったり、葉っぱ遊びをしたり、案山子を作ったり、染め物もしたり等々、子どもたちと農園で四季折々の自然遊びもしました。

◎第 12 期代表より
第 12 期のちえのわ農学校を振り返ってみて最初に思ったことは、「毎月天気で悩んでる」ということでした(笑)。ちえのわ農学校は外での活動がメインなので、天気によって活動内容が大きく変わります。そのため田植えなどの活動ができなくなる天気の場合は延期をして別の日に開催するということもあります。今年度は大雨による延期がありました。
また、ちえのわ農学校の前日まで雨が続いていたり、晴れていても風が強かったり、台風が直撃したり等、様々な天気の下で私達はちえのわ農学校を開催しました。悪天候だと思えても、子どもたちと一緒だと面白いことが見えてきます。「天気が良い」というのは晴れだけではありません。雨でも雪でも台風でも、子どもたちはその時その時を楽しんでいて、ふと「センス・オブ・ワンダー」という言葉を子どもたちから感じました。しかし、実は天気が晴れでも雨でも台風でもワクワクしていたのは、私も同じです。
第 12 期の活動を通して、子どもたちから「楽しい」、「また来年も参加したい」という言葉をたくさんいただきました。スタッフは畑や田んぼの様子を見るために日々農園に足を運びますが、参加者の子どもが農園に遊びに来たり、自然と親しんでいる様子を見かけたりということがしばしば見られます。ちえのわ農学校が子どもたちに自然の”わ”や人の”わ”を感じるひとつのきっかけや居場所になれたのではないかと思ってい

ます。また、保護者の方々にご記入いただいたアンケートには、「毎回帰ってくると農学校であったことを楽しそうに話してくれる」、「今、野菜に興味を持っているようです」、「来年も参加させたいです」等数々の温かい言葉やちえのわ農学校を評価してくださる声に感無量で涙を流すスタッフもいました。私達は学生サークルであり、社会的に見れば未熟ではありますが、それゆえに話し合いや試行錯誤の日々を積み重ねることで、私達はたくさんのことを学ばせていただきました。ちえのわ農学校を支えてくださった皆様、そしてちえのわの子どもたちには心から感謝しています。ありがとうございました！

2016 年度代表　大窪青樹(東京学芸大学 3 回生)

【第 13 期 ちえのわ農学校　参加者募集要項】

□活動要旨

正式名称：ちえのわ農学校
対　　象：小学校３年生～中学校３年生までの男女 16 名前後（抽選有。）
スタッフ：東京学芸大学学生を中心に 30 名程度
場　　所：東京学芸大学　環境教育研究センターおよび教材植物園(彩色園)
費　　用：実費負担 15,000 円（食費、保険、材料費等）
主　　催：東京学芸大学サークルちえのわ　　URL: http://www.gakugei-chienowa.org/（準備中）
共　　催：NPO 法人「自然文化誌研究会」　　URL: http://www2.plala.or.jp/npo-inch/
後　　援：小金井市教育委員会

□2017 年度　年間予定

月１回の土曜日（全 10 回）　10:00～17:00（4～7 月）、10:00～16:00（9～1 月）
（日程・内容ともに変更する可能性があります。）

日程	4/22	5/20	6/17	7/15	8/19-20（宿泊）	9/16	10/14	11/11	12/9	1/20
活動内容	開校式、農園散策、夏野菜種まき	田植え	かかし作り	竹工作	夏野菜料理、ヤマメさばき	冬野菜種まき	稲刈り	脱穀・精米	もちつき、稲わら工作	修了式
夏野菜の栽培						冬野菜の栽培				
田植えから脱穀・精米までの稲作体験　果物の調理・保存　自然を対象にしたあそびなど										

※活動内容で未定の部分もありますが、子どもたちのやりたいことを聞きながら決めていきたいと考えています。また自由時間や季節ごとの農園散策、おやつ作りなどを通して、子どもたちひとりひとりの、ふと持った興味を大切にして活動していきます。

□活動中の健康管理・安全管理について

健康管理

参加者の方に予め提出していただく「健康管理カード」により、食物アレルギーや既往症などの把握を行います。また、活動当日の朝にも健康状態を確認します。

安全管理

参加者は行事保険、スタッフはボランティア保険に加入します。活動中、農具の取り扱いなどは事前に指導を行ったうえで、特に注意します。また、緊急の場合に備え、応急処置の方法、近隣の病院やタクシー会社の電話番号を明記したマニュアルを作成しています。

○参加見込みとお問い合わせ

Tel：080-1117-8872（佐奈）　　E-mail: gakugei_chienowa@yahoo.co.jp

※お問い合わせ後、詳しい資料をお送りいたします。資料をご覧の上お申し込みをお願いします。

※お申込みの締め切りは、2017 年３月 31 日必着でよろしくお願いします。

代表：東京学芸大学教育学部３年 菊池香歩（きくち　かほ）

参加希望の方、まずはお問い合わせください～！！

■ 第 13 回通常総会の報告 ■ 2017.2.18

本会の活動予定を中心に密度の濃い話し合いができました。今年も多くの活動を実施していきますので、皆さまのご協力、ご参加の程よろしくお願いします。

第 13 回通常総会に関しては紙面の都合上、2017 年活動予定と 2016 年決算報告のみ掲載しました。

2017 年度　特定非営利活動法人自然文化誌研究会　事業予定書（2017 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

月日	分類	事業	場所
1/21	共催	第 11 期ちえのわ農学校最終回	東京学芸大学環境教育センター
2/18	総会	第 13 回通常総会	小菅村
4/15-16	シンポ	伝統知研究会シンポジウム	神奈川県藤野町
4/22	共催	第 12 期ちえのわ農学校①	東京学芸大学環境教育センター
4/29	デイ	野草のてんぷらとお茶つみ	東京学芸大学環境教育センター
5/3-6	冒険	むらまつりキャンプ	小菅村
5/4	PPM	植物と人々の博物館　展示解説	第 30 回多摩源流まつりに合わせて
5/13	PPM	雑穀栽培講習会	小菅村
7/28-30	野人	源流での登山道整備	甲武信小屋周辺
8/2-8	冒険	こすげ冒険学校	小菅村
8/11-13	冒険	やまめキャンプ･いわなキャンプ	小菅村
8/12-21	野人	タイ環境学習キャンプ	タイ
9/23-24	主催	INCH まつり	小菅村
12/26-28	冒険	まふゆのキャンプ	小菅村

・ログハウスづくり第 4 弾「トイレ棟づくり」がスタートしてます。興味ある方は事務局まで！！

・植物と人々の博物館が小菅村内で引っ越しをします。4 月以降の週末で手伝える方はよろしくお願いします。引っ越し準備の日程などは事務局のブログで情報を載せていきます。
→現在、植物と人々の博物館のある小菅村中央公民館が耐震工事が始まるので引っ越しとなります。

＜役員紹介＞

代表理事　中込卓男
副代表理事　中込貴芳
副代表理事　小川泰彦
理　事　横山緑
理　事　鈴木英雄
理　事　黒澤友彦
理　事　藤盛礼恵
理　事　木下稔
理　事　亀井雄次
理　事　加藤翔（新規）

監　事　瀬谷勝頼
監　事　雫永法

平成28年度　特定非営利活動にかかる事業会計収支計算書

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで

特定非営利活動法人自然文化誌研究会

科　　目	金　額（単位：円）		
Ⅰ　収入の部			
1　会費収入			
会費収入		636,000	
2　事業収入			
(1)　野外環境学習事業収入	1,829,300	1,915,265	
(2)　指導者養成事業収入	0		
(3)　博物館事業収入	85,965		
3　委託事業収入		438,592	
4　補助金等収入			
助成金収入		2,000,000	
5　寄付金収入			
寄付金収入		1,555,000	
6　雑収入		3,000	
当期収入合計(A)		6,547,857	
前期繰越収支差額		−32,538	
収入合計(B)			6,515,319
Ⅱ　支出の部			
1　事業費			
(1)　野外環境学習事業費	1,233,976	1,384,272	
(2)　指導者養成事業費	22,751		
(3)　博物館事業支出	127,545		
2　一般管理費			
(1)　職員給与	1,560,000		
(2)　通信費	75,634		
(3)　事務局運営費	107,039		
燃料代	209,875		
電話代	247,450		
事務用品費	87,578		
書籍資料代	0		
印刷・製本費	136,080		
備品代	213,276		
		2,636,932	
3　予備費	490,451		
		490,451	
4　補助金支出		2,000,000	
当期支出合計(C)			6,511,655
当期収支差額(A−C)			36,202
時期繰越収支差額(B−C)			3,664

成合基金：￥184,700

平成２８年の決算報告について出納簿等提出された書類に基づき監査した結果その内容は正確であることを認めます。

平成29年　2月12日

監査員　　瀬谷　勝頼

同　　雫　永法

「タイ環境学習キャンプ」特集～はじまってから 20 年⑥

今回の連載は前回の連載⑤の翌年のことである。2008 年８月 16 日から 24 日までの第 11 回環境学習キャンプで、日本からは 6 人の参加者であった。パンダキャンプでシリポンさんと環境学習を始めた初期のころで私たちのワークショップが方向性を示し始めた大事な年になった。（中込　卓男）

タイの鳥　3　日記より

若林　卓司

２００８年　８月１７日

プラナコーンで１０時に会う約束である。少し前に行き、ポンティップと学食で朝食。今回日本側は六名である。ゴミさん（中込　貴芳）、ゴメさん（中込　卓男）、それに高校の生物の先生の永井さん、学芸大４回生の秋山君、それと小菅村の村会議員の木下さんとそこの住人でゴメさんの会の会員の黒澤さん（※黒澤事務局長の奥さん、黒澤東江さん）である。プラナコーンのチンタナー先生、チンナタット先生に送られて、まずはバンサイの手工芸センターを目指す。バンはシリポンさんが仕立ててくれたもので、奥さんのボータンさんと二人の子供、ラームさんが迎えに来てくれた。ここで買い物をしたり、手作り教室に参加して、修了証をもらったり、鳥のケージに入ったりして、パンダキャンプに着いたのは暗くなっていた。

パンダキャンプは一部を拡張して、大きな宿泊所がつくられていた。いつものように呑み助の日本側はシリポンさんと冷えてもいないのに缶ビールを開けていた。夜、雨が降った。

８月１８日

朝、シリポンさんにパンダキャンプに植えられている草木の説明をしてもらう。今回はまず、フーワイカーケーンからである。最初にサイバー滝に行く。ここでフーンさんに会う。フーンさんはフーワイ・メーディーで上役と対立したらしく、職場をかえなければならなかったらしい。その案内で滝へ。途中でいろんなものに出合ったが、みんなを喜ばせたのはサソリだった。黒い大型のサソリだった。

滝は大きなものではなかったが、水量が豊かだった。フーンさんが宿泊所の近くにヤイロチョウの巣があると教えてくれた。それで期待したが、巣穴はもぬけの殻だった。今朝まで幼鳥がいたというのが

残念だった。私は未練気に巣立ちをした、その巣穴の写真を撮った。

昼食はシリポンさんからスープ財団の人とすると聞いていた。ダムの近くに二つレストランがあって、そのうちの一つはフーワイカーケーンで狩った動物の肉を食事に出すところだそうだ。本来はその店へのあてつけのために、食事する意図があったらしいが、私たちが約束の時間にずいぶん遅れていったとき、その店で待ってたスープ財団のソンバットさんと奥さんのベンジャマースさんを私たちは店の主人と勘違いをし、会食の趣旨をきちんと把握できなかったのが心残りだった。

ソンバットさんはスープ財団の活動の現状を話してくれ、ギターの伴奏で、「森の叫び」という歌を聞かせてくれた。食事中に激しい雨が降った。

フーワイカーケーンの宿泊所に着いたのは夕方になっていた。ここは２回目になる。男組はスープ・ナカサティアンの像があるほうへぶらぶらし、観察塔に上って鳥を見た。カップルと思えるカササギサイチョウの飛翔を見た。夜は野生動物の観察をした。宿泊所の前は草地のテント場になっているが、シカがよく現れるという。２年前にはヒョウやトラも来るとフーンさんに聞いたので、夜中に起きだして、周りを見に行ったこともあったが、今回は近くの川岸に行った。向こう岸でライトの中にサンバーディアーやホエジカの姿があった。

８月１９日

食事は管理事務所の方に１キロほど歩かなければならないが、宿泊所の近くの川と管理事務所に行くとき通る橋は同じ川なのだから距離にして知れていると思っていた。みんなそう思っていたに違いない。川を通って探鳥しながら行くのもいいだろうと思った。シリポンさん、黒澤さん、木下さんは来なかったが、６人で川を下っていく。ところがいつまでたっても橋に着かないのだ。言い出しっぺの私に非難が集まってくるし、また先の景観からも橋があるところの様子にも見えない。幸い携帯が通じたのでポンティップに連絡を取ってもらう。川はかなり蛇行をしているらしい。

先は長いなあと思って水の中を歩いていると、突然繁みの向こうからフーンさんの声が聞こえてきた。この川はいびつなＳ字状をしている。このまま歩いているととんでもない時間がかかると、バイパス路を切り開いて、スープの自殺した官舎が見えるところまで連れ出してくれた。なぜ、私たちが川のどの辺りにいるかを想像して、フーンさんがやってこれたのか、ゴメさんはその勘のようなものを盛んに賞賛していた。私はフーンさんがやって来た茂みの向こうに道路があるものと思っていたのだが、そんなものはなかった。スープの官舎がある辺りから観察塔の下へと川が流れているが、その川は橋が架かっている川と別のものだろうと思っていたが、それが同じもので蛇行によって形成されたものだと教えられた。

朝から思わぬ運動をしてしまったが、朝食の後、私たちはフーンさんの案内で「トラ」のトレールに入った。このトレールはその名の通り、トラやヒョウの観察に用いられていたものだが、観察は終わったという。このトレールは以前歩いたことがあるが、フーンさんは別のところへ内緒で案内してくれた。

出発の前行くところは象の多いところで、トラも出るとフーンさんが話してくれた。そして腰に挟んでいる拳銃を見せてくれた。ゆっくり列を作って歩いていくといたるところに象が食べた跡がある。竹なんかでも引き裂かれて地面に倒れている。この辺りの竹が一箇所に密生し、棘の生えた枝が何重にも取り巻いているのはこういうことに対処するためだろうか。日本のような生え方では一本一本倒されて甚大な被害を受けることだろう。途中でサルの群れに出会った。カーンの一群だった。１時間半ぐらい歩いてあちこちに小さいぬた場が点在しているところに出た。トラの足跡もある。フーンさんの話ではこの辺りは赤っぽいウア・デーンと呼ばれる野生の牛が多いということだ。

帰りは別の道を歩いた。今は雨季なのでいろいろキノコがあったが、編み笠がかかったのや漢方薬に使うキノコなど初めて見るものもあった。小さな池に出た。前回「トラ」のトレールを登って、尾根から見下ろした池である。話を聞くとフーンさん等が乾燥期に水に困る動物のために作ったという。その灰色の水面を打ちつけるようにカンムリアマツバメが水浴びをしていた。ここから宿泊所までわずかだった。昼食の後、「カオヒンデーン」トレールの方へ歩いて行った。たくさんの足跡とともに、ここでサソリモドキを見た。

雲行きが悪くなってきたのでトレールには入らずに引き返す。宿泊所で少し休んでから、車でタップ・サダオ川の下流へ行った。宿泊所の近くを流れているのもこの川だし、朝彷徨したのもこの川、午前中森の中を歩いて出合ったのもこの川。今回はこの川に沿って行動したようなものだ。道は一部路肩が崩れていたりして、シリポンさんは慎重に運転していた。突然目の前で大きな鳥が飛び出した。すぐに茂みに飛び込んでしまったが、クジャクである。シリポンさんとフーンさんの話を聞いていると２０年ほど前この辺りでクジャクを放してから住み着いているという。フーワイカーケーンでは絶対に行ってみたいカオバンダイ、去年行ったメーディー川流域、それにここの三か所だという。

車を降りて川に出る。砂地にクジャク、カワウソの足跡がいっぱいである。フーンさんが浅い砂地の川底を敏捷に逃げ回るものを捕まえようとしていた。何か甲羅のようなものがあるがすぐに砂地にもぐってしまう。用心しているので噛むのかもしれない。それを突然私の足元に放り投げてきた。スッポンだった。背を押さえると首を伸ばして噛みつこうとするが、先ほどの逃げ回りですっかりエネルギーを使い果たしたのかもしれない。すぐにおとなしくなってしまった。

この川にはカワニナのような貝が大変多い。水の中にホタルの幼虫がいればしめたものだと思ったが、強く雨が降り始めてきた。帰りの道が気になったのか、シリポンさんは私たちを急がせた。夕食が終わったのはもうすっかり暗くなってからだった。宿泊所に帰るのかと思ったら、シリポンさんはちょっと動物を見ようという。それで外部へ通じる道へ車を走らした。荷台に乗っている連中はライトを照らして、目が光った、あれはシカだ、と興に入っている。どのくらい走っただろうか、私は左手にはっきりこちらを向いた動物の姿が目に入った。荷台の連中はもっと鮮明に見えただろう。イヌ科であることははっきりしている。「マーナイ」か「キツネ」である。やかましく穿鑿したが一匹しかいなかったことでキツネだろうとした。

宿所に戻る前に、前日シカを見た川岸に行った。Civet の種の決着がついていなかったからだ。シカはいなかったが、幸運なことに Civet は木の上にいた。ああだこうだとみんなで見て、Common Palm Civet におちついた。Civet はジャコウネコのことだ。宿所に戻ってシャワーを浴びて、少しすっきりした。温度は２０度は切っていないだろうが涼しくていい。一部はまたビールを浴びだした。フーンさんが奥さんを連れてきて、私たちはいろいろ話した。

８月２０日

シリポンさんは、１８日サイバー滝に行った後、温泉に行く予定をしていた。しかし時間がなくなったのでそれを割愛した。日本側は残念がったのでそのことを話すと、朝に行くという。それで、朝６時に起きて朝食なしですぐにフーワイカーケーンを後にした。早朝の探鳥をしようと思っていたポンティップは不満だったようだが、日本人の温泉狂に勝てる訳がない。温泉はサモートーンというところにあった。辺りは今ダム湖になっているが、以前は寺があったという。現に仏像があったが、その仏像は昔は見上げるような状態になっていたらしい。湯の湧き出し口も水の中になってしまうので、その部分に管をつけて上に汲み上げているという。ようするに、湯の湧き出し口や仏像の周りを少し埋め立てて島にして、そこに温泉施設を作ったものだ。

男連中が入った建物は二つの浴槽があり、一つはかなり広かった。湯は汲み上げてタンクに入れて置くため、朝一番はあまり温度が高くない。浴槽にちょっとぬるい湯を張りながら入るので体が温まるまではいかなかったが、こんなところで入れるとは思っていなかったのでこれでもよかった。建物の周りでスズメの群れの近くにイエスズメの小群もいた。また、温泉に入らなかったポンティップはセアカスズメの写真を撮っていた。三種のスズメが同一の場所にいるのが気になった。

パンダキャンプに戻って、遅い朝食をとってから、恒例のようにイマートのカレンの集落へ行った。ここで腰を使った織り方を見学させてもらい、何人かは織物を買っていた。隣がゴムの採集をしているので、今朝取り立ての樹液を処理しているのも見せてもらった。

黒澤さん、秋山君、ゴミさんはその処理過程をやらせてもらっていた。帰りにタイ語で「オン」と呼んでいるバンブー・ラットを見せてもらった。

パンダキャンプに戻って、昼食後、ノーイさんが建てている竹の家の屋根葺きなどを手伝った。ノーイさんは私たちが泊まっている宿泊所を建てた人で、シリポンさんの仕事を手伝っている。カレンとラオスのハーフだという。カレンの家を訪れると竹で床が延べてある。シンプルで足ざわりもよく、日本側は日本側はこの作り方を知りたがっていたが、目の前でノーイさんに作ってもらい、自分らも作ってみる機会を得た。

日本側は活動域の小菅村ロッジを作っているというが、この竹の床はそこで生かされることだろう。また、ノーイさんに竹で作った鳥用の罠を見せてもらった。簡単の仕掛けなのだが見事なものだった。今は使うことはほとんどないが、ニワトリほどのものに効果があるといっていた。夕方日本側はマッサージに行ったので、私はしばらく横になった。グループでは私が一番年寄なのだ。これはあるとき私にとってびっくりするほどの事実なのだ。帰りが遅くなったので、夕食が遅くなり、その後なんやかんやしゃべって時間を過ごした。

８月２１日

今までバーンライへ来てずっと遊んできたが、何のためにここに来たかと言うと、この日のためである。過去二回は環境教育というより何か科学物理教室のようなものだったが、今回はようやく、環境教育について踏み込むことができた。前座の私は鳥の調査方法をスライドを使って話したが、ゴメさんが自分の在職する小学校での環境教育の具体を話した時は見えていた先生からため息のようなものが漏れた。その後ゴミさんが会の自然文化誌研究会での環境教育の理念と活動について話した。また、最後に木下さんが小菅村での活動について話した。午前中は地元の先生方に話したが出席された先生は２５人ほどだった。

午後は学生を対象にした活動だった。人数は先生と同じほどだと聞いていたが、小学校の高学年から中学生まで、もっといたように思う。まず、永井さんが日本から顕微鏡を持ってきて、自分の口の中の細胞を見たり、いろいろ微生物の観察をした。学生のほとんどは今まで顕微鏡に触れたこともないらしいので、みんな嬉々として接眼鏡をのぞき込んでいた。私は次の用意の手伝いで忙しかったので、この時はポンティップが通訳をした。

次にゴミさんが竹等を使った２，３の遊び道具を実際に学生に作らせた。学生の人数が多かったので、二つのグループに分け、一つのグループは外に出た。ホールでは秋山君、黒澤さんが中心に指導した。しばらくして雨が降り出し、外のグループは私たちの宿所のベランダで続けた。雨がやんでからはグループを入れ替え、この作業を続けていると予定の時間になってしまった。日本側はまだプログラムを用意していたが、今回は今まで以上に実りがあったと思

う。私はまたしても疲れたのでしばらく休んだ。

夕食を済ましたころ、ソンバットさん一行が来て、主に「カラワン」の歌を聞かせてくれた。４，５人来ていたが、ある人は音楽を使って自然保護を訴えているという。日本側も何かすることになり、ギターのうまいゴメさんが自作の曲を歌った。私も長い間弾いていない支離滅裂のギターを弾いた。この時来ていたポンさんは近くで福岡式農業を実践しているという。それで次の日必ず訪問することを約束した。何曲も聞かせてもらったが、時間のすぎるのが早くソンバットさん等の活動について具体的に聞く時間がなかったのが惜しまれる。

８月２２日

朝食後プ・ボーン小学校へ行った。小さいながら図書館、ホールが出来ていたので驚いた。寄付を募ったという。学校の回りに植えたトウモロコシを売って、臨時の先生二人分の給料も払っているといっていた。しかし一人４５００バーツでは大変だと思う。三回目の訪問になるが学校の環境事情は少しずつだがよくなっているようだ。今回もゴメさんのクラスからの寄付金とポンティップがビスケットを二缶贈った。

一度パンダキャンプに戻ってから、シリポンさんの家に寄った。ここでマーイ・ファーンという木を煎じたお茶をご馳走になり、五角のカブトムシを見せてもらう。そしてポンさんの家を目指した。今回初めての４人はポンティップが近くのタム・カオウォン寺へ連れて行った。私等の間では一度は見ておくべきものになっている。その間に私たちは先にポンさんの家を訪れた。そこで日本軍の話を聞いた。それは弟のオンさんが言い出したのだが、イマートのずっとむこうに高い山があり、そこからはフーワイカーケーンが一望できるという。古老の話ではその山の頂上に日本軍の航空監視施設があったという。今残っているのは石組だけだが、オンさんは実際に行ってみてきたという。ただ、そこまでの道のりは険しく、ゾウやトラが多く、危険だということだ。そこにはザボンの木があり、それは苦くて食べられないが、それも日本軍が植えたのだろうと言っていた。そうするとシリポンさんがこの辺りには飛び火したように大型のカタツムリがいるがそれも日本軍が食料として持ち込んだものかもしれないという。なかなか興味ある話なのでシリポンさんには情報を集めてもらい、ゴミさんには日本でこの辺りに日本軍が展開していたのかどうか調べてもらうことにした。家でワーンの葉を煎じたお茶を呼ばれた。その名の通り甘い。また、たくさんザボンを出してもらった。そのうち寺組が合流した。

目ざとい連中がざるに干してあるもち米を見つけた。何をしているのか尋ねるとどぶろくを造っているという。９月１日はスープ・ナカサティアンが自ら命を絶って１８年目になる。その追悼式の前日の夜はコンサートがありその時飲むという。どぶろくの造り方をお母さんから教えてもらう。

パンダキャンプに戻り、昼食をとり２時過ぎになっただろうか。パンダキャンプを後にする。今回はとりわけ充実した内容のように思えた。つぎから環境教育をどのように発展させるか課題は尽きないように思えた。帰りにスパンプリーの１００年市場に寄り、参加者６人全員竹の床作りに使う鉈のようなものを買った。ノーイさんが使っていたものだ。

『藤農便り』　第８号

宮本茶園 tetote farm　　宮本　透

藤野２回目の冬は殊の外厳しく、最低気温氷点下の日が続き自宅の水道管は破裂、部屋のファンヒーター温度表示は 10℃に届きません。９時過ぎまで布団にくるまり、温かくなった午後に畑に出かけ、趣味の YouTube 鑑賞にたっぷり時間を使いました。一押しの冬アニメは「ガヴリールドロップアウト」、JK になった天使ガヴリールが「ネトゲ　ジャージで　ゴロゴロ」、悪魔サターニャたちとつるんで楽しく欲に溺れた人間界に染まっていくという物語です。ED「ハレルヤ☆エッサイム」の一節に「わたしたち　好きなことだけして　生きてくと決めたの」とあり、賃金労働者を辞めた私にぴったりの歌詞です。「劣等　Let’s Try ドロップアウト」の生活を楽しみます。

・就農と就活

１月１日から職業は農業、藤野には先輩農家の宮本農園があるので宮本茶園を名乗ることにしました。「一年の計は元旦にあり」で「食品製造」の授業を担当していた時に購入した農文協「茶大百科」を読み始めました。「茶の

バイブル」たる重厚な本ですが、生産者事例にあるいろいろな農家の土壌管理に興味がわきました。

和田地区に借りた１反８畝の茶畑は放置されて４年が経ち、うっそうとした茂みになっています。ハローワークで兼業の仕事を探し、2～3 年かけて手入れし収穫できればと考えていました。正月があけると JA 津久井郡から電話があり、上岩地区にある３反の茶畑の地主さんを紹介されました。続いてつくいやさいの仲間から、旧相模湖町内郷地区にある富岡さんの tetote farm(2 反４畝)を一緒にやらないかという話がありました。農家になってわずか２週間、自給農耕ゼミの藤野駅前雑穀畑を合わせると８反、全て耕すことができるのかと躊躇しました。
１月 15 日に藤野中央公民館で開催されたトランジション藤野の「一年の計発表会」、前日 Facebook で案内を見て参加することにしました。午後は予定があり午前中の話しか聞くことができませんでしたが、とても有意義な会でした。総菜屋の開店準備、春菊栽培の拡大、地ビール工場の設立準備、林業の活性化等々、提案者の情熱ほとばしるプロジェクト発表は迷う心を吹き飛ばしてくれました。この人たちと友達になれば、８反の畑を耕すことは絶対できると確信、腹を据えて農業に取り組もうと決心しました。営農計画書に記載した茶と雑穀栽培、極められるように精進します。

上岩地区の茶畑は佐野川で最初に茶の木が植えられた場所で、記念の石碑が建っています。富岡さんはつくいやさいの仕事でしかお付き合いが無かったのですが、一緒に耕しながら話しをすると驚いたことに光陵高校（神奈川県）の後輩だとわかりました。佐野川茶発祥の畑、後輩の畑を耕すのも何かの縁、大切にしたいと思います。
ハローワークに雇用保険受給の手続きをしているので、1･2 月は求職活動をしました。８反の畑を耕すので、職業相談で週３日程度午後３時間の仕事を探し、「相模原市児童育成指導員等募集」を紹介してもらいました。教育実習は農業高校、高校教員免許で学校に勤めていたので、子どもとのかかわりは高校生しかありません。娘や息子が小学生の時は弓道部顧問に熱中して家におらず、遊んだ思い出もありません。仕事で小学生と接するのは初めての経験です。子どもとかかわる仕事をすることはもう無いと思っていたので、これからが楽しみです。

和田地区茶畑

上岩地区茶畑

佐野川茶発祥の石碑

内郷地区 Tetote farm

・麹作りと（仮）竹パウダープロジェクト

失業給付を受けているので賃労働をしていません。１日の労働時間を４時間未満にして、のんびり畑仕事をしながらお付き合いのある市民グループの活動へ積極的にかかわっています。

「醗酵の郷つくい」はつくいやさいのメンバーが中心となり、醗酵文化を学びながら旧津久井郡の里山を耕す農家と消費者を結ぶ活動をしています。古民家つくいもんや青根草木館を拠点に、味噌･醤油作り、里山観察会や木工体験等のワークショップを企画･運営しています。つくいやさいのミーティングで仲吉さんが育てた米を麹にして２月の宅配ボックスへ入れることになり、麹作りを請け負いました。桑原社長からいただいた藤野倶楽部で収穫した大麦があり、米麹と麦麹を同時に作ることにしました。

２月７日ビオ市、藤野倶楽部の設備を借りて午前中に米麹、午後に麦麹を仕込みました。麦麹を仕込むには浸漬時間・蒸し加減・温度管理が難しく、昔はよく失敗したので古い専門書を引っ張り出し復習しました。米麹と麦麹は製造法が微妙に異なるので、「食品製造」の授業で使ったプリントを元にわかりやすい資料を作って見学者に解説しました。２日目は５時間おきに温度をチェック、手入れをして品温を下げ、こうじぶたの上下を入れ替えて、夜中まで付きっ切りの管理です。おかげさまで３日目にきれいに出こうじして、肩の荷が下りました。

相模湖で醤油作りに取り組む「ちーむゴエモン」のイベントに参加した時、近所の尾崎さんから上野原市八米地区の竹林で行われる仮）竹パウダープロジェクト（グループの正式名称は検討中です）に誘われました。植物に詳しい池竹さんの呼びかけで集まった仲間が、荒れた竹林を管理して間伐した竹を粉砕機でパウダーやチップに加工

しながら、里山を再生させようという壮大なプロジェクトです。熊が出没するうっそうとした竹林に入り、傘をさして歩ける間隔を目指して竹を伐採します。急斜面での作業は効率が悪く、重い竹を運び出す一日の量は多くありませんが、明るくきれいになっていく竹林の変化は疲れを吹き飛ばしてくれます。発酵させた竹パウダーは土壌改良材に最適だそうで、地主の佐藤さんが製造したものは JA クレインや中央自動車道談合坂 SA で入手できます。私は分配された竹チップを茶畑の畝間に敷き詰め、有機肥料に使おうと考えています。

右が麦麹、左が米麹

手入れ前の竹林

手入れ後の竹林

竹パウダー作り

・茶栽培始動

秦野市は足柄茶の主産地です。石川さんは平塚養護学校に勤務していた時の同僚で、菩提に茶園を営む茶栽培の先輩です。茶栽培や製法に詳しく、昨年末まで都内にあった息子さんの茶舗で手作り茶を販売していました。とても親切な方で毎年恒例の学大環境教育研究センターお茶つみ会の技術面の相談に乗ってもらい、私が茶農家を目指すきっかけとなった公民館の手揉み茶講習会に誘ってくれました。認定農家になった報告をして「秦野の茶農家を見学したい」とお願いすると、柳川の熊澤園を紹介されました。

熊澤さんは 40 代で脱サラして父親から継いだ野菜畑に茶の木を植えて茶農家になり、自園自製工場を持つ熊澤園を立ち上げました。全国の有名茶産地農家と提携し、生産者と消費者が茶を通して心と顔の見える間柄を大切にした製品作りに取り組んでいます。有機認証の茶畑は落ち葉が敷き詰められ、お手本にしたいと思いました。

熊沢園見学後農協の藤野茶業部に加入し、部長の小池さんと清水さんに手伝ってもらいながら和田茶畑の手入れを開始しました。茶農家の第一歩を踏み出しましたので、応援よろしくお願いいたします。

・伝統知シンポジウムと 2017 年度自給農耕ゼミ

４月 15～16 日に「篠原の里」で開催される INCH・エコプラスのシンポジウム、藤野世話人会の一人として微力ですが準備にかかわっています。木俣師を交えての世話人会議に出席、事務局から送られてきたビラを公民館・やまなみ温泉・ふじのね等公共施設、トランジション藤野・パーマカルチャーセンター等関係団体、私がよく利用するてくてく他飲食店に置いてもらいました。ビオ市では出店者や買物客に配布し、地元の参加を呼びかけています。懇親会には地元産の食材をたくさん用意しますので、皆さん津久井の春の味を楽しんでください。

自給農耕ゼミは昨年度終了後、収穫したモロコシやハトムギを近隣の農家から借りた千歯こきや唐箕を使って調整、３人のミーティング（飲み会？）で加工･調理の研究を続けています。今年度は全６回、雑穀街道の農家や料理研究家等その道のプロの方々を講師にお招きして栽培・収穫・加工・調理のワークショップを企画します。世話人はいつもの３人に新メンバーを勧誘中で、木下さんが「ミレット藤野」と命名してくれました。日程・講師等詳細が決まりましたら「植物と人々の博物館メールマガジン」にてお知らせいたします。

熊澤園

石川さんと熊澤園茶畑

整枝後の和田地区茶畑

唐箕作業

■ 活動案内 ■

その１「野草の天ぷらとお茶つみの会」　4.29（デイキャンプ）

毎年恒例の「野草の天ぷらとお茶つみ」のデイキャンプをやります。普段は「葉っぱ」「雑草」として見落としがちな野草でも食べられるものがたくさんあります。野草を摘んで、天ぷらにして食べましょう。また、自分たちでお茶をつみ、蒸して、揉んで、飲みましょう。樹木医の岩谷美苗さんによる恒例の「キノコ探し」もメニューに予定しています。フランス料理の高級食材「モリーユ」が見つかるかも？
雨天決行です。友人・知人を誘ってぜひご参加下さい。

日　時　：４月 29 日（祝）　９：30～15：00
場　所　：東京学芸大学 環境教育研究センター（農場）
対　象　：どなたでもご参加ください♪
参加費：中学生以下：300 円高校生以上：500 円
＊当日参加 OK です。事前申し込みは不要です。
＊雨天決行です。
＊昼食は持参でお願いします（天ぷらをするのでおにぎりなど。）。
＊余裕のある方は 9 時ぐらいに来て準備を手伝ってくださると嬉しいです（＾＾）

←採れたたくさんの野草！この後、天ぷらです。

←お茶も朝からみんなで揉みます～。

その２ 冒険学校『むらまつりキャンプ』　5.3～5.6（2 泊 3 日）

新緑がまぶしい、多摩川源流の小菅村で２泊３日のキャンプを行います。清流での川遊び、焚き火、山菜採り、テント泊、ご飯づくり、五右衛門風呂、お祭りの見学などなど、多くのプログラムを準備しております。
小菅村の「第 29 回多摩源流まつり」も開催されます！夜は、日本一のお松焼きと、山に響きわたる花火大会も見に行きます！ご家族での参加も可能な、ゆったりとしたキャンプですよ～！！

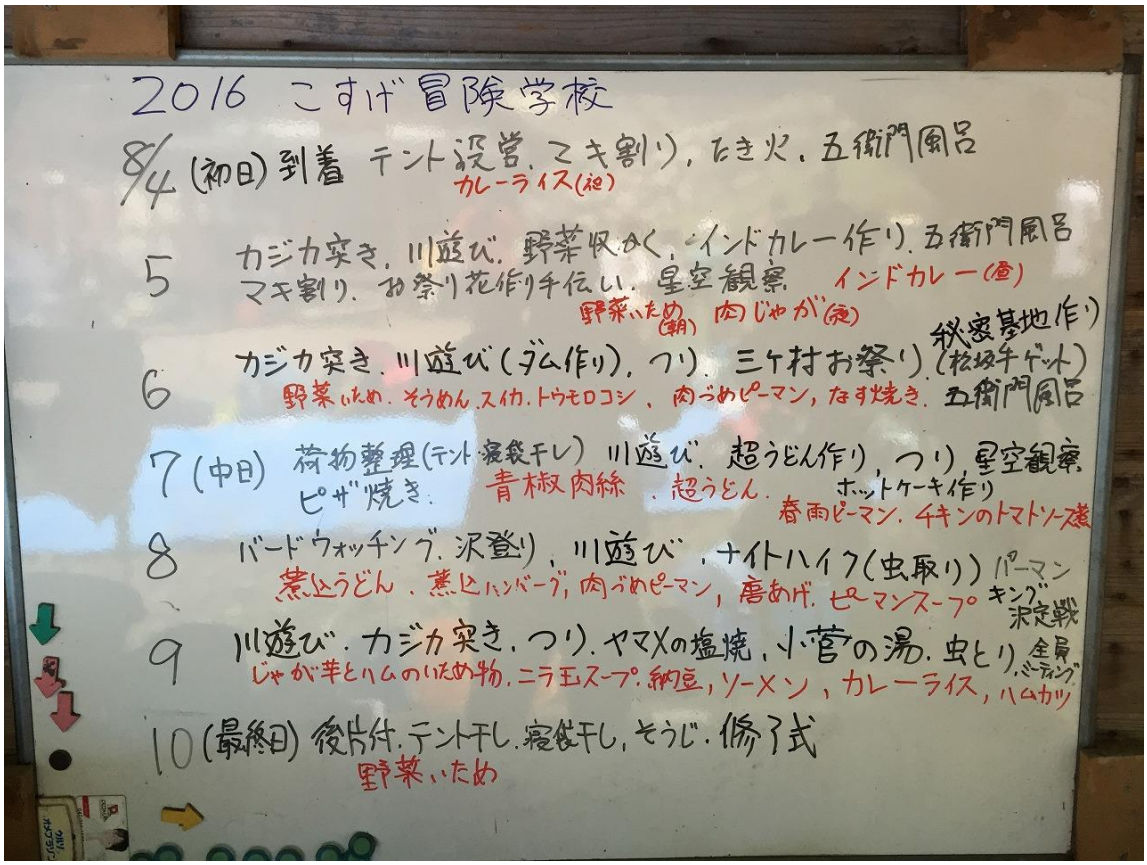
日程　：５月３～６日（最長３泊４日）
場所　：小菅村のいつものキャンプ場
対象　：子どもだけの場合は小学校３年生以上、
　　親子参加の方は幼児も OK ですよ。
宿　泊　：テント泊、ログハウスでの寝袋です。
参加費：食費・宿泊費・保険代・教材費・奥多摩駅～小菅村間の交通費を含みます。
①会員：子ども　￥26,000　非会員 28,000 円
②会員：親子一組　￥35,000　非会員 41,000 円

※先着順で 25 人の定員です、お早めにどうぞ！！
※これ以外の組み合わせの時は、ご相談いたします。
※短い日程でも参加できます。割引あります。
※会員になると、今回から会員料金で参加できます。
＊参加希望者は、ハガキ・もしくはＥ－ｍａｉｌに住所・氏名（ふりがな）・年齢（学年）・性別・電話番号を記入の上、４ 月 17日（月）までに事務局までをお申し込みください。

その３ 冒険学校「こすげ冒険学校」　8.2～8.8(６泊７日)

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす６泊７日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、魚を捕ったり、思う存分に遊び続けよう！！寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。毎晩星を眺めながら眠くなったら寝てしまおう！！一緒に山の中や村の暮らしを探検する７日間です！

日 程：８ 月２ 日（水）～８月８日（火）６泊７日
場　所：小菅村のいつものキャンプ場
宿　泊：テント・ログハウス・野宿などで寝袋
対　象：小学校３年生～中学校３年生　20 名
参加費：会員：￥28,000　　非会員：¥30,000
申込み：７月７日（金）まで、先着順です。



今年はどんなプログラムになるか、楽しみですね！？

その４「タイ環境学習キャンプ」　8.12～8.21(９泊 10 日)

今回も首都バンコクから車で数時間、ウタイタニー県バンライ郊外の「パンダキャンプ」を拠点に活動を展開します。毎年訪れているファイカケン野生動物保護区は世界遺産であり、観光客はもとより、地元の方でも許可がなければ入れません。貴重な動物を見て、密猟者から保護区を守るレンジャーからの話あります。

少数民族のカレン族の集落訪問、伝統工芸品の製作など体験内容を充実させています。恒例の現地教員とのワークショップも好評となっています。高層ビルの立ち並ぶバンコクと少数民族が暮らす亜熱帯の森に皆さんは何を感じるでしょうか？通訳、ガイドも同行し、現地のラジャバト大学との連携もありますので安心してご参加くださいませ！！

日　程：8/13（土）～22 日（月）
対　象：高校生～一般　（中学生以下は要相談）
参加費：会員 155,000 円　非会員 165,000 円
※航空券と現地での費用が含まれています。
申込み：６月３日（金）締め切りですが、航空券の手配がありますので、まずは事務局までご連絡ください。また、パスポートを持っていない方は、急ぎ用意する必要があります。出発前に事前に参加者ミーティングも行いますのでご安心を！

その５ 冒険学校「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」　8.11～8.13

「小菅村をぜひ体験してみませんか？」１泊２日のキャンプをしながら、小菅村の自然と文化を感じるキャンプを行います。親子での参加が可能なキャンプです。大人の方もお子さまとご一緒に、小菅村の自然や文化に触れてみませんか？　ご一緒にキャンプをしながら、野外で食事をつくり、思いっきり遊びながらテントで休みます。「自然」という名の遊び場は最高ですよー。今年も「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」と連続して行います。連続で参加して２泊３日のキャンプにすることも可能ですよ～！！

「やまめキャンプ」：8/11～12　１泊２日　「いわなキャンプ」：8/12～13　１泊２日

※連続での２泊３日 OK でゆっくり過ごすこともできます！

場　所：小菅村のいつものキャンプ場　　**宿　泊：テント・ログハウス・野宿など**

対　象：小学校３年生以上は子どものみの参加可能。20 名　　**申込み：７月７日（金）まで、先着順です。**

参加費：1 泊２日親子での参加：20,000 円(会員)　　**※　連続参加、子どものみの参加は割引きします。**

お子さんと一緒に沢登り

白糸の滝ツボへダイブ！！

参加の申込は事務局まで、E-mail かハガキで、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、年齢（学年）をご記入の上、お気軽にお申込ください。お待ちしております～♪

その６ のびと講座「源流での登山道整備」 7.28～30(2 泊 3 日)

甲武信ヶ岳は、山梨県・埼玉県・長野県の分水嶺となっており、荒川・千曲川・笛吹川の３つの河川の水源です。ここから流れる水を飲み水、生活用水として利用しています。私たちの生活にかかわりの深い上流で、本当に美味しい源流の水を味わいながら、登山道での草刈り、整備を行い、ご一緒に汗をかきませんか？

甲武信小屋のご主人・山中徳治さんのお話を交えて、源流と流域のつながりを身をもって感じる講座です。

体力があまりないのでちょっと自信が・・・という方でも、自分のペースで活動できますよ。。

やることはいっぱい～あります。

日　程：７月 28 日（金）～30（日）２泊３日　　**場　所：甲武信ヶ岳と甲武信小屋の登山道**

宿　泊：甲武信小屋（山小屋に泊まります！）　　**参加費：会員：￥15,000 程（宿泊費・交通費・保険代など）**

対　象：高校生～一般 15 名（中学生以下は要相談）　　**申込み：７月７日（金）まで、先着順です。**

その 7 「INCH 祭り」～「INCH ライブ 2016」と「のびと講座きのこキャンプ」で楽しくやっちゃいましょう！！　9.23～24（1 泊か日帰り）

秋の一大イベント「INCH 祭り」を開催します！ログハウスのあるキャンプ場で、「INCH ライブ」と「のびと講座 きのこキャンプ」を開催し、秋の味覚を堪能しながら楽しい時を過ごしましょう！

ま、ライブをＢＧＭに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！　音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方もぜひぜひお越しください♪

きのこに興味のある方は、一緒に山に入ってきのこを採りに行きましょう！！

←野外でバーも開催！

■日程９月 23 日（土）～24 日（日）日帰りも OK
■会場：山梨県小菅村いつものキャンプ場
■交通機関
※小菅村までの交通は自力になりますので、よろしくお願いします。バスの時間などはご相談ください。
■お申し込み：ライブの当日参加は OK ですが、きのこ採りに参加される方は保険に加入しますので、９ 月 18 日（月）までにお申し込みください。

植物と人々の博物館』 vol. 19

①「第 20 回　雑穀栽培講習会」ご案内

古くから栽培されてきたアワ、キビなど雑穀の在来品種の種まきを実習します。講師は地元で伝統的な雑穀栽培をしてきた方々です。

雑穀を紹介しながら、種まきをみんなで行います。

●日時：20176 年 5 月 13 日（土）
13:30～16:30（現地集合・解散です）

●会場：山梨県北都留郡小菅村　小菅の湯周辺
植物と人々の博物館および雑穀見本園

●内容：雑穀栽培実技講習　栽培概要の解説
中川智氏（雑穀栽培後術顧問）岡部良雄氏（雑穀栽培後術顧問）
雑穀の種播き作業をしながら、畑作に関わる伝統的な智恵のお話を伺います。

●参加費：1,000 円程度の予定

●昼食は小菅の湯で食べましょう。

●締め切り：4 月 30 日までに事務局までご連絡。

②源流祭りにおける展示の解説・講座

５月４日は小菅村の「第 30 回多摩源流まつり」を開催します。当日、植物と人々の博物館（小菅村中央公民館）では、木俣美樹男先生による、縁側講座（日本塾講座）を開催し、展示の解説もしますので、ぜひぜひお越しください。
担当：木俣美樹男（植物と人々の博物館研究員）
※当日の博物館スタッフを募集中です～！！

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.7 その 10

『冒険探検粉塵記　　第 10 話　国際的な環境教育活動』　駄作者　文福洞先斗

放蕩息子であるポンちゃんは、運よく適当な師匠に巡り合って、植物の世界を人生の遊び場にすることができました。こちらの話はまだまだ尽きることはないのですが、いま少し世界のためにまじめに働いたこともあったので、自慢しておきたいと思います（オホン）。

タイの王立科学技術教育研究所から環境教育視察団が東京学芸大学においでになり、ご案内したご縁により、ユネスコのアジア事務所から環境教育研修移動助言者として、1994 年にバンコックに呼ばれました。ドムアン空港には、黒塗りのベンツでオーストラリア人のマクリーンさんが迎えに来ていたので、要人待遇でパスポート・コントロールはすぐに出られました。彼の奥さまは日本人です。こんなことは初めてのことで、もちろんその後もありませんでした。

同時に、オーストラリアのデビーさんも呼ばれており、元気な彼女が研修の場をとり仕切って欧米調の環境教育プログラムを雄弁に紹介しました。ポンちゃんは、タイ語はもとより、流ちょうなオーストラリア弁で一方的に話すことなどできはしないです。一週間もある場の居心地の悪さをどうしようかと考えました。一つは日本語の教材を英訳すること、しかしタイ語に訳すわけでもないので、これだけではまったく能がありません。そこで、デビーさんの研修内容のなかにない課題を考えました。欧米の科学的な環境学習プログラムにないこと、アジアの環境学習の側から提案できることを整理してみたのです。生活環境を全体として俯瞰する視線がないことに気が付きました。特に、それは食べ物への感謝および自然や精霊への信仰に関する学習プログラムです。欧米にアジアから提案できる全体論的な環境学習の重要な内容だと思います。もちろんたどたどしい英語で、自然文化誌研究会の冒険学校の実践事例と合わせて、提案しました。

滞在中はタイ料理や熱帯の果物を満喫しました。タイの人々はとても親切です。果物が好きだといったので、夜ごとに何かの差し入れがありました。恥ずかしながら、果物の王様ドリアンなどという高価なものは召し上がったことはなかったので、匂いの強い羊羹のようなものを頂いても、これが季節外れのドリアンの姿だとは知りませんでした。ピーマンをどうして食べるのかなと口にしたら、シャリシャリと美味しく、それがフトモモ科のレンブだとは無知なポンちゃんは後で知ったことです。

研修の途中の日程で、急にパタヤに行くと伝えられ、地元の教員方を集めて研修会でもするのかと推測しました。ところが水着をもってきただろうなとタイの諸先生方はおっしゃる（写真１）。アメリカ軍がベトナム戦争のときに兵士の保養地にしていたのがパタヤだったそうです。要するに観光旅行をともに楽しもうということだったのです。海に入り損ねたポンちゃんを楽しませようと、ティファニー劇場に連れて行ってくださいました。「あなたは何もしゃべるな」と言われ、タイ人料金で入場、デビーさんは隠しようもないオージーだから外国人料金でした。美しい方々が絵顔満面に踊っていたのですが、一人ラダワン先生だけがユネスコのアドバイザーをこのようなところに連れてきてけしからんというようにお怒りでした。この時、「竹を割った」ような江戸っ子気質に共感して、義姉弟の関係を結びました。ラダワン姉はタイで最初に環境教育センターを創立し、私は日本で最初に創立していたのです。別の先生はアドバイザーをトゥクトゥク（三輪タクシー）に乗せるなんて失礼と言いながら、クロコダイル・ファームに連れて行ってくださいました。何百といるワニ、爬虫類の眼の睨みと巨大な口は恐怖だったな。

このご縁から、ラジャバト大学プラナコンの大学院で講義をもつことになり、その後、タイ・日本 TJ 自然クラブを創り、20 年来のお付き合いが続いています。さらに、国際シンポジウムを森とむらの会のご援助で企画して、今はなき麻布グリーン会館で開催し、ラダワン姉らタイの方々、ジョアン・ウエッブ先生らをお呼びしました（写真２）。この成果を見て、東京学芸大学の西澤事務局長がご助力くださり、さらに大きな国際シンポジウムをオリンピックセンターで開催し、欧米やアジア各国から 10 人ほどを

ご招待することになり、500 人以上の参加希望がありました。これらの実績で、文部科学省のお覚えめでたく、ついにユネスコアジア太平洋環境教育セミナーを毎年開催することにつながりました。毎年、10 カ国ほどから参加者が来訪してくださいましたので、この伝でいくつかの国に行き、お世話になりました。また、文部科学省の国際連携タスクフォースにもタイとの交流事例を取り上げていただきました。

輪はさらに広がり、国連大学の坂本憲一先生のお誘いで、国連大学ゼロエミッション活動に参加させていただき、共同研究もあってか、当時のヒンケル国連大学長に公的にご紹介いただきました。他方、京都大学の河野昭一先生からご推薦いただき、セントルイスで開催された国際植物学会のシンポジウムで招待講演をしました。ちょうど、マクグワイア選手が 500 本を超えるホームランを打った球場の近くに国際会議場があったので、その瞬間、祝福の花火も見えました。ついミーハーでカルディナルスの T シャツを土産に買ってしまい、ステッカーも得意になって車に貼っていました。このように、国際会議の場で ELF 環境学習過程を提案して、批評をうけながら、発展させてきたのです。なんとか、つたない英語で世界を渡ってきました。

もう一方で、文部省の若いお役人様から、始まったばかりのワールド・スクールの手伝いをしてあげたらと勧められて、高野孝子さんに出合いました。ワールド・スクールというのは、高野さんを含む国際隊が犬ぞりで北極圏を旅行する様子を、パソコン通信で世界の子供たちと共有する試みでした。エコプラスとのおつきあいはこの時からです。グレゴリー・マイケルさんの日本縦断旅行の企画にも協力しました。今、小菅村で栽培している団子麦は、彼が瀬戸内海の大三島の農家から頂いてきた種子をつないでいるものです。環境協会の依頼で、デンマークとドイツの環境教育の調査に行き、ワールド・スクールの運営委員であったデンマークのインガ・リーズの家に泊めていただきました（写真 3）。林野庁の調査依頼で、カリフォルニアの野外環境教育事情の調査に行き、ジョセフ・コーネルさんのお世話にもなりました。

この冒険教育実践ワールド・スクールは、当時アメリカの副大統領であったアル・ゴア氏に高く評価され、まだ始まったばかりのインターネットを用いた環境学習プロジェクト GLOBE（地球のための環境学習観測プログラム）につながりました。NOAA(アメリカ海洋大気庁)や NASA(アメリカ航空宇宙局)との協力による GLOBE 日本の中央センターを文部科学省の委託で東京学芸大学が受け、今日まで継続しています。これの日本拡張プログラムが EILNET（環境学習ネットワーク）で、とても良い活動でしたが、たった 2 期 4 年の事業でした。インドのシタラム先生（国際雑穀フォーラム会長）のお嬢さんラシュミも参加してくださり、カレー談義をしたのは楽しかったです。ちなみにこれらの実践報告は隔年発行されています。

これ等のお客様をご案内する際には、自然文化誌研究会のメンバーがいつも一緒にお付き合いをしてくれ、ほんとに助かりました。これらの自然文化誌研究会が支えたパイオニア活動の、ポンちゃんだけが知る事実を書いておきたかったのです。この国では最初に創業・起業した人々、独創的なパイオニアたちは評価されず、黙殺されてしまうことが多いです。鎖国以来、とりわけ明治維新の脱亜入欧政策以来、模倣し商品化することこそが「新しい流行」だともてはやされているのです。閑話休題、次回からは、また、ちょっと作り話っぽい冒険探検旅行の話に戻ります。（2017.2.24）

国際シンポジウム参加者（日本）

パタヤの海岸（タイ）

環境学校の移動実験バス（デンマーク）

○　今後の活動予定のお知らせ（2017 年春～夏）

4/15-16　『第 39 回環境学習セミナー～山村の豊かさ、生物文化多様性を知り、学び、伝承する』　@藤野町
4/29　のびと講座『野草の天ぷらとお茶つみの会』　@東京学芸大学 環境教育研究センター
5/3-6　冒険学校『むらまつりキャンプ』　３泊４日　@小菅村
5/4　『植物と人々の博物館 展示・縁側講座』　@小菅村 第 30 回多摩源流まつりの日に開催
5/13　『第 20 回雑穀栽培講習会～雑穀の種まき』　@小菅村
7/28-30　のびと講座『源流での登山道整備』　@甲武信ヶ岳・甲武信小屋　２泊３日
8/2-8　冒険学校『こすげ冒険学校』　@小菅村６泊７日
8/11-13　冒険学校『やまめキャンプ』　『いわなキャンプ』　@小菅村　１泊２日 or2 泊３日
8/12-21　のびと講座『タイ環境学習キャンプ』　@タイ　９泊 10 日
9/23-24　『INCH まつり』～INCH ライブときのこ採り　@小菅村　日帰りでも１泊でも

○　事務局より

●ついに今年で 40 歳になります。自然文化誌研究会と出会って 20 年を超え、事務局やって 15 年を超え。　クロ

●薪ストーブの季節が終わっちゃて寂しいです。　はるこ

○　事務局の麗しき日々

・やぎちゃんが母になったもよう、おめでとうございます！！
・中込ミさん、緑さんが教員生活最終年度のもよう。
・風馬くんが大学進学で新潟に引っ越したもよう。
・翔くんの告白「ハイエースは高いな、別を探そうかな・・・。」（続）
・村里有紀ちゃんも結婚したもよう。おめでとう～！！
・就職活動中ののんちゃん。就職内容迷走中の青樹。がんばれ！！
・冒険探検部の部員が１名になったもよう。
・甲斐がデスクワークも始めたもよう。みんな変化があるねぇ。

○　自然文化誌研究会　一緒に活動しませんか？

略称 INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12 月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正 会 員：10,000 円　一般会員：5,000 円
学生会員：3,000 円　賛助会員(個人・団体)：10,000 円
家族会員：6,000 円　特別維持会員：100,000 円
植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円
小菅村特別会員：1 口 1,000 円から
成合基金（冒険探検基金）：「成合基金」と記載してください。
郵便振替口座　：　00100-2-665768
口座名　：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

ナマステ 127 号

特定非営利活動法人　自然文化誌研究会　会報誌
＜発行日＞2017 年 3 月 10 日
＜編　集＞自然文化誌研究会　事務局
＜発　行＞特定非営利活動法人
自 然 文 化 誌 研 究 会
The Institute of Natural and Cultural History

＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2
TEL　：0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）
E-mail：　npo-inch@wine.plala.or.jp
H P：　http://www2.plala.or.jp/npo-inch/
事務局ブログ：　http://npoinch.naturum.ne.jp/

次回「ナマステ 128 号は 5 月中旬の発行を予定しています。お楽しみに！！